

じょうきょうじ

浄敬寺だより



発行日 平成二十八年八月十三日 第二十七号

【法語】

仏法のうえには、毎時に付きて、
空おそろしき事と存じ候べく候う。
ただ、よろずに付きて、
油断あるまじきこと、と存じ候え

蓮如上人御一代記聞書 一〇三

【意識・解説】

蓮如上人は、

「仏法を聞く身となった上は、いつでも、
凡夫の私がすることは一つ一つが恐ろしいことなの
だと心得なければならぬ。
すべてのことについて油断することのないよう
心がけなさい」と、折にふれて仰せになりました。

*戦争もテロも殺人事件も、すべて人間の行ったこと
です。縁が重なれば、恐ろしい事件を起こし得る私
であるという自覚が必要だと思ふ今日この頃です

2016 年前半写真展



夏の法話会 (塚本智光師)



盆参会(7/14,15)



報恩講
お引き上げ



夏休みおたのしみ会(8/7)



秋田に嫁ぎました。
お世話になりました。

☆巻頭法話☆

厳しい残暑が続いています。出来るだけ冷房は避けようなどと思っていたのは最初だけ、今はすっかり冷房頼りです。確かに昔よりは暑さも厳しくなっているのでしょうか、冷房の無い時代はどうやって過ごしていたのか思い出すこともできません。原発事故の後、節電を誓ったことなどもできません。原発事故の後、づく自分の意志の弱さを情けなく思います。

先般、所用で東京まで出かけてきましたが、行く度に驚かされることばかりです。先ずあの人の多さ。深夜でも歩くのにも困ってしまう位の混雑振りです。毎日エンマ市をやっているような人混みを見るにつけ、日本中の人口の多くが東京に集中してしまっていることを実感します。もう一つは公共交通網の凄さです。あれだけの人間が駅で路頭に迷うことなく次々と電車でさばかれていく様はまるで手品を見ているような驚きです。電車に乗るとまた驚かされます。乗っている人の七割方がスマホを操作していることです。いまだにガラケーを所持している私は気恥ずかしくて取り出せませんが、それにしても他人など側にいないかのようにスマホに没頭している光景を見るにつけ、私には文字通り傍若無人という言葉が頭に浮かんできて寒々しい気持ちになります。

世の中が便利になるということは有り難いことで

はありますが、その代わりに私たちは何か大切なものを見失っているのではないかと考えさせられます。現代社会は人間関係が大変希薄になつていけると言われます。物が満ち溢れ、お金さえあれば何でも手に入るという現代社会は、また格差社会であるとも言われます。いわゆる能力主義と言われる社会構造の中で、力あるものだけが尊ばれて、そうでない者は社会からはじき出され、挙句はその人格さえ否定されていくという現実があります。東京へ行くと、今でも路上生活者を見ます。道行く人は、何か汚いものを見るような目で通り過ぎて行きます。私もその一人かも知れませんが、この人たちが人生の敗北者だと決め付けてしまうのはたやすいことでしょうが、ここまで極端ではなくとも、私たちの社会では似たようなことが起きているのではないのでしょうか。役に立つとか立たないとか、好きだとか嫌いだとか、自分の物差しで他を計り、それに合わない者は切り捨てていくという現実があります。しかし、そういう社会においては、やがて自分も切り捨てられていく存在だということに思いを致さねばなりません。

私たちは、一人一人が尊い「いのち」をいただいで生きています。しかも、人間は全て裸で生まれてきて、裸で死んでいく存在です。そこには何の差別も特権もありません。深い因縁で与えられた人間の「いのち」をお互いが尊び合いながら生きていける社会の実現

こそが、真宗の目指す同朋社会だと確信しています。「人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。この身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてかこの身を度せん。」人と生まれた喜びを仏法聴聞の中で気づかせて頂きたいものです。

合掌

(住 職)

☆庫裡便り (坊 守)



◎永代管理墓「安養廟」 あんにようびよう

昨年完成した「安養廟」ですが、既に納骨された方や生前契約された方もあり、建立の願いに賛同いただいております。先日も御家族でご相談に来られた方がございました。少しでも安心していただけるようご相談をお受けしていきたいと思っております

◎実父がお浄土に還りました

二月十日に実家の父が満九十二歳で命終しました。生前、寺の行事などで総代・世話方の皆様にもお世話になりました。娘二人には厳しい父でしたが、孫を可愛がり、また孫守りの上手なお爺さんでもありました。出征経験のある父でしたが、

辛いことがあったのか、当時のことはほとんど話していませんでした。「戦争は絶対してはならない」を父の遺言だと思っております。

◎二女千晶のこと

三月に文学座での初本公演「春疾風(はやて)」が新宿紀伊国屋ホールであり、親戚、知人、家族総動員で見に行ってきました。その後、アキバ・スクエアであった柏崎市のシテイセルスイベントにゲストとして呼んでいただいたり、ラジオの放送劇に出演したりと、活動の場も広がっているようです。

先日も青年座での公演があり、連日満席だったと喜んでいました。声の出演をしたスターウオーズのDVDも発売になり、住職が早速購入したところです。

◎三女朋恵のこと

三月に京都大谷祖廟で仏前結婚式を挙げ、四月末には秋田市で披露宴を行い大勢の方から祝っていただきました。その席での父親への感謝の手紙に住職は大変感激していたようです。六月末に本山出版部を退職し、秋田県能代市で新生活を始めました。

◎「お盆」の冊子をお配りします

この冊子の中に「葬儀と結婚式」という寄稿があります。私たち真宗門徒の生活にとって、とても大切なことが書かれています。どうぞご覧ください。



☆二〇一五年前半を振り返って

◎お講（二月二十日） 平井地区の皆様

平井地区の皆様からお講を取り持っていただきました。おときをいただいた後、勤行・住職からの法話がありました。丹精こめて作られたお米やお野菜でのおときには、料理上手なお母さん方の話が弾みます。この日の為にご都合をつけていただき、ありがとうございました。

◎春彼岸（お中日三月二十一日） 法話 住職

「彼岸」とは、阿弥陀仏の浄土を指します。浄土は、私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界である此岸に生きる私たちの在りかたを照らし、「そのような生き方ではないのですか」と問いかけてくる世界です。如来様やお浄土に還っていかれた私たちの先祖様に手を合わせることをとおし、いつか又還っていくであろう世界、浄土を思い、その浄土の世界で仏となって私どもを導いてくださるご先祖からの御法の光に気づかせていただきたいと思います。

◎報恩講お引き上げ（五月十九日） 絵解き法話 今泉温資師

年中行事の中でも真宗門徒にとって最も大切な行事が報恩講です。親鸞聖人があきらかにされた本願念仏をいただき、日頃の自分の生き方を問い直す機会として、大切にお勤めしています。

お馴染みの今泉先生からは、親鸞聖人の御一代記が描かれた御絵伝について絵説き法話を頂戴し、勤行は市内法中寺院のご住職方より参勤いただき、荘厳な法要となりました。

おときには、例年通り下原地区の皆様からお勝手のお手伝いをいただきスムーズに準備ができました。ありがとうございました。



◎夏の法話会（六月二十五日） 法話 塚本智光 師

浄敬寺夏の法話会は、新潟市南区等運寺の塚本智光住職からご法話をいただきました。塚本師は、仏様とはどういう存在なのか、ということを考えている縁が尊いと言います。たまたま私というのちは、ご縁が整っているからこの身が成り立っているのだから、実はその身のうち、私を生かしているお働きが仏様。その働きが言葉になると南無阿弥陀仏と説明されました。

アインシュタインが来日した時、アインシュタインは真宗の近角常観との対話の中で、「どのようにして仏様は願いをかけているのか、仏心とはなにか？」と質問した。近角は姥捨山の話を喩えに「仏心とは遣るせない心、仏様は、人間が自分本位の生活をしているという想いが破られるまで呼び続けることをあきらめない。その心が仏心」と説明した。名号とは仏心の言葉、その心に気づき自分本位ではなく生かされているのちであることに目覚めて出るのが、称名念仏 南無阿弥陀仏であるとお話をいただきました。

（ 当院 記 ）

◎盆参会（七月十四・十五日） 法話 住職・当院

盆内とも呼ばれる新潟県中越地方独特の行事で、直接のご先祖の縁の寺にお参りいただく法縁です。近年は、新盆法要も兼ね、ご家族が亡くなられて初めてのお盆（新盆）を迎えられる方にお葉書でもご案内しております。盆参会をきっかけに初めて寺の行事に参加してくださった方もいらっしゃるかもしれません。亡くなられた方を「仏さま」としていただく生活をお伝えしていきたいと思っております。ぜひご家族でお参りください。



◎夏の子ども会（八月七日）

子どもと大人、そしてスタッフ合わせて総勢九十名。元気な声が境内に響き渡りました。

お参りに始まり、住職のお話、境内でゲーム、大きなシートを敷いてのお外ごはん、ミニコンサート、肝試し、花火と進みました。赤ちゃんから中学生、そして大人：までの幅広い年齢層ながら、お互いを気遣い、一緒に遊んだり、お手伝いをしたりしてくださる姿がとても印象的でした。大人も子どもも、仏様の深く広い願いがかけられた『仏さまの子ども』です。

美味しい焼きそばを焼いてくださった台所スタッフの皆様、去年に引き続き、お友達と一緒に受付・お菓子配り等進行のお手伝いをしてくださった中学生のお兄さん・お姉さん方、そして、特別暑い日でしたが、元気いっぱい参加してくださった皆様に、心より感謝いたします。

こちらにも写真を掲載しておりますが、本堂にも写真を掲示いたしますので、寺のご本尊へお参りの際にご覧ください。

当院撮影



夏休み子ども会

御門徒・中村進四郎氏撮影



来年も遊びに来てね！

☆二〇一六年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・・午前六時より 本堂にてお朝事

九月十日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月十九～二十五日 秋彼岸

* お中日 二十二日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとぎ

九月二十七日（日） 「音市場」会場

十月四日（火） 女性坊守研修会 講師 今泉温資氏

会場 エネルギーホール

十月一日（土） 『歎異抄』をよむ会 特別講座

* 午後一時三十分より 講師 佐野明弘師

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 七日十組団体参拝 ぜひご参加ください。

十一月十二日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十四～十五日（月・火） 有縁講（宿泊・赤倉ホテル）

十一月二十七日（日） しまい講

* 午前十時半より法話・勤行・おとぎ

十二月十一日（日） 年末法話会 講師未定

二〇一六年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

☆定例会 『歎異抄』をよむ会 ご案内

* 日時 第二土曜日午前九時より

九月十日、十月一日（特別講座）、十一月十二日、
一月十四日、二月十一日、三月十一日

* 内容 『歎異抄』の解説、正信偈同朋唱和

終了後、自由参加での茶話会あり

* 持ち物 赤本、念珠

毎月土曜日に、定例会として「『正信偈』をよむ会」を開催してきました。十一年かけて二回お話をさせていた
だきましたので、九月よりテーマを『歎異抄』に切り替
え、親鸞聖人のお言葉にたずねていきたいと思えます。
基本的に第二土曜日の開催ですが、教区や組の行事との
関係で変更もありますので、ご了承ください。

☆第二十五回 晴香の『真宗門徒のマメ知識』

今回のテーマは

『葬儀口々通夜・葬儀』です。

今回は葬儀前のこと、ご臨終から納棺までを解説しましたので、今回は通夜と葬儀に焦点を絞って解説したいと思います。宗派で示されている定義に基づき、この地域独特の風習も交えの解説です。

☆三者での打ち合わせの際に・・・

ご臨終の後、枕経のタイミングで、住職・喪主・葬儀社の三者で打ち合わせを行い、日時・会場を決定します。通夜と葬儀の会場については、自宅・手次寺・葬儀社のホールの三つの選択肢がありますので、ご希望をお知らせください。打ち合わせの際には、葬儀までの大まかなスケジュールや、通夜・葬儀に会葬されるご近所の方、ご親類の方への案内や、会場への移動手段についても相談して決めましょう。

☆葬場の荘厳

ご本尊を中央上部に安置し、その前に棺を安置します。近年遺影（写真）が中心になりがちですが、ご本尊が遺影やお花で隠れることがないようにしましょう。

☆通夜

古くは夜伽（よとぎ）とも言われました。死者のかたわらで夜通し過ごすこと、亡くなられた方の人生の物語りのように語る時間とも言えるでしょうか。近年は、会葬者の都合で、お通夜にお参りされる方が多いかと思いますが、近親者を中心に、ご遺体を見守ることが本来の意味です。

ちょっと
解説！

自宅？
手次寺？
ホール？



7

☆葬儀・告別式

①「葬儀」と「告別式」

葬場で司会者が「葬儀ならびに告別式を…」と言われますね。

「葬儀」は御本尊を中心に勤められる儀式、「告別式」は故人とお別れ会の意味合いがあります。ですから、僧侶の入場と退場までを葬儀、葬儀後に棺にお花を手向け、茶毘に伏す前の最後のお別れの時間を告別式と呼びます。また、自宅にて葬儀を行っていた頃は、自宅から出棺する際の「出棺勤行」と火葬場での「葬場勤行」に分けて勤められました。現在は一連の勤行を同一会場で「葬儀」としてお勤めしています。

②会葬する場合

現在、特に都心部では、お仕事の都合もあるのか、親戚やおとぎの案内のあった親しい関係者以外は、通夜に会葬するケースが増えています。地域の風習もあるかもしれませんが、通夜の解説でも書いたとおり、本来は逆です。時間に都合がつけられるならば葬儀に、または通夜と葬儀の両方にお参りしましょう。

☆おとぎ

通夜振る舞いと葬儀後の二回、おとぎにあう機会があります。おとぎは空腹を満たすだけの食事会ではありません。他の命をいただくことをもって、自らの命を繋いでいる私たちの姿をあらためて受け止める仏事です。

通夜・葬儀のおとぎでは、故人と縁の深い方をお願いして、思い出を語っていただくのも良いかと思えます。

☆最後に

エンディングノートや遺言を書き綴るのも、遺された人が困らない一つの方法ですが、「おまかせ」という潔い生き方もあると思えます。日頃からお話されてみてはいかがでしょうか。

今年も参院選、都知事選、そしてブラジルのオリンピックと競う合う出来事が多い年の様です。お寺でも三兄弟が少しでも上位に立とうと毎日の様に競っている、仕事から帰ると妻が報告してくれます。少しくらい、仲良くできないのかと毎日思います。

競い合い相手より上位に立つことを「勝利」と言います。この「勝利」も仏教の言葉です。意味は仏法を聞き、この上ない^{すぐ}勝れた利益に預かった、という意味です。普段使っている、競ったり争ったりして相手を負かした結果ではありません。

本当の勝利とは仏法によって、競い争う必要がないと言う事が、うなずけた時ではないでしょうか。

(当 院)

五月十九日報恩講お引き上げの記録

* 報恩講で尊前の立花(一対)は当院の力作
* 坊守を助けてくださるお勝手チームの皆様
のお陰で、浄敬寺名物山菜たっぷり報恩講のおときが出来上がります



お手伝いしたい
お年頃・・・

☆編集を終えて：

家族の行事もあり、子ども達の学校や幼稚園の行事もあり、何だか気忙しかった今年の上半年は、今までに経験したことのないようなスピードで駆け抜けていきました。のんびりと子どもの成長を喜んでいる暇もありませんでしたが、夏休みに入り、お楽しみ会の準備をしていたところ、息子達のはじめてお手伝いをしてくれました。これには感激したと共に、数少ない「助かったお手伝い(笑)」にランクインです。

毎年、宝探しをするための「お宝」を折り紙で作ります。今年のお宝はくまモン、熊本県のゆるキャラでした。四月に熊本県を震源として九州地方を襲った熊本地震は、大きな被害をもたらし、今も大変な生活をされている方々がおられます。あの時は心を痛めたけれども、時の経過と共に薄れて行くのも事実。福島は？沖縄の基地問題は？・・・どうでしょうか。

目先のことと自分の利益のことばかり目が向いてしまう私達ですが、時折立ち止まって、考えてみたいものです。

戦後七十一年の夏、沖縄では住民の反対を無視して、手付かずの自然の残る村にオスプレイが発着するヘリパッドの建設が進められています。さて来年は何を「お宝」にしましょうか。

(晴 香)

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺』

小僧☆はるかのかの気まぐれ日記』

http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

